



生活クラブ風車 夢風 News

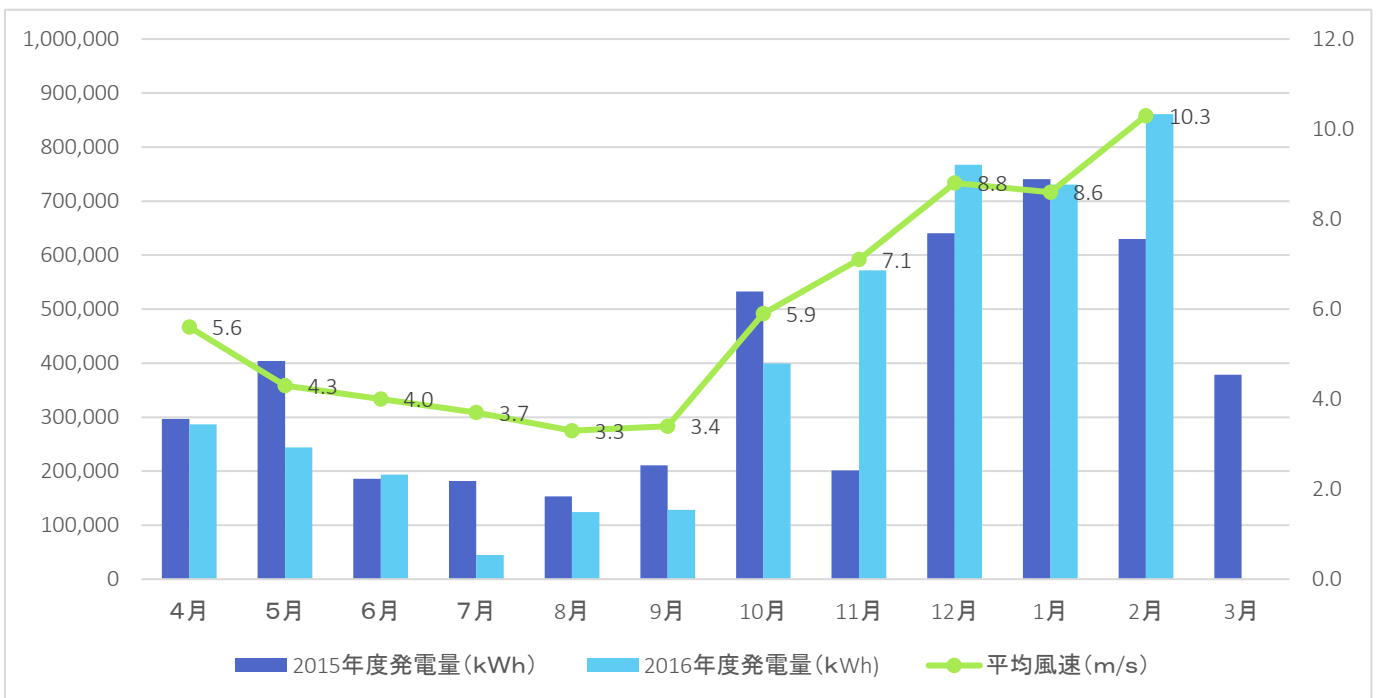


Vol.57

●発行 2017. 3. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田
●発行責任者 半澤彰浩(代表理事) ●編集責任者 西村明子

■2016年度 発電実績

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)		発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	286,904 【96.7%】	5.6	20.0	10月	399,343 【75.0%】	5.9	27.0
5月	243,884 【60.3%】	4.3	16.5	11月	571,908 【284.3%】	7.1	39.9
6月	193,900 【104.3%】	4.0	13.5	12月	767,309 【119.8%】	8.8	51.8
7月	45,130 【24.8%】	3.7	3.1	1月	760,667 【102.7%】	8.6	51.4
8月	124,507 【81.3%】	3.3	8.4	2月	860,820 【136.7%】	10.3	64.4
9月	128,479 【60.9%】	3.4	9.0	3月			



- 2月は風況が大変良く、2月としては過去最高の発電量を記録しました。
- 大きなトラブルもなく順調に稼働しています。

■ 第9期 第3回グリーンファンド秋田理事会報告

2月20日(月)グリーンファンド秋田東京オフィスにて第3回理事会を行いました。

○2016年度の第3四半期決算は、発電量1,738,560kWhで前年比126.5%でした。冬の強い風を順調に受け、トラブルもなく稼働しました。

○風車夢風5周年企画の開催計画について報告・承認しました。

○映画「おだやかな革命」への協賛について報告・承認しました。

○にかほ市における環境プログラム案について報告・承認しました。

○にかほ市との交流企画の16年度報告と17年度計画案について報告・承認しました。

■映画「おだやかな革命」に協賛します。



生活クラブ風車「夢風」は2015年の夏より、地域資源を生かして人口減少社会の課題を解決しようとしている地域を取り上げている映画「おだやかな革命」の取材を受けてきました。監督は、在来作物について取り上げたドキュメンタリー映画「よみがえりのレシピ」の渡辺智史さんです。映画はこの夏に完成、公開予定です。グリーンファンド秋田ではこの映画に協賛をすることを今回の理事会で決定しました。映画は今、最終の編集作業に入っており、クラウドファンディングでの応援も募っています。ご興味のある方はこちらのページもご覧ください。

<https://readyfor.jp/projects/odayaka-kakumei>（「おだやかな革命」で検索すると簡単です。）

■「夢風」の地主の芹田営農組合で加工用トマト栽培の学習会を行いました

2月26日(日)に、芹田の加工用トマトをピュールにしている山形県寒河江の鈴木食品(株)柴田剛社長と、トマトの苗を生産している山形県大江町のトマト農家の山川正信さん、(株)生活クラブスピリッツの岡田良一さんを講師に、芹田営農組合で学習会を行いました。

始めに、遠藤豊組合長より実験栽培2年目の2016年度栽培状況と、2017年度は圃



芹田自治会館で学習会を行うメンバー



場を変えて約3反で作付けを行う計画であることが報告されました。山川さんからは、トマト農家として、苗づくりから元肥の入れ方、定植、農薬の使い方、株の仕立てや病気について、自らの失敗談も含めて具体的にお話頂きました。柴田社長からは、加工用トマトの配送トラックの手配などについてご提案いただき、確認いたしました。営農組合の役員の方々からも熱心な質問があり、大変有意義な学習会となりました。

←生活クラブのトマトケチャップ。ひとビンに様々な手間と思いが詰まっています。
1本に14個のトマトが凝縮しています。

■夢風ブランド開発生産者連絡会を開催しました

にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会のもとに、にかほ市の生産者の連絡会として「夢風ブランド開発生産者連絡会」が2014年7月に発足し、にかほの産物の取組や夢風ブランド品の開発をすすめています。

2月27日(月)にかほっと多目的室にて、2016年度第1回の夢風ブランド開発生産者連絡会を開催しました。

はじめに、三浦米太郎商店の三浦悦朗会長よりご挨拶を頂きました。主な議案について、夢風ブランド開発活動のまとめとして取組実績を確認し、2017年度取組計画を確認しました。また、5周年記念取組として2017年秋に、にかほの物産を取り組むこととし、取組品目や納期について協議しました。風車建設5周年記念イベントを2017年7月29日(土)30日(日)に開催する概要について報告し、29日に風車の下で行う祝う会での試食などへのご協力について確認しました。また、交流企画のまとめと2017年度計画について、運営規約の改正について、芹田営農組合による加工用トマト栽培とにかほ市大豆の指定産地化について報告を行いました。



協議会の会場となった「にかほっと」は、道の駅ねむの丘のお隣に昨年春オープンしたばかりの施設です。にかほ市の特産物が食べられるフードコートや会議のできる多目的室、観光客も無料で使える足湯などがあります。



再生可能エネルギーだけで暮らしていけるようになるの？

世間では再生可能エネルギーは、コストが高いと考えられているようです。日本の現状では確かにコストが高くなっています。こんな現状で、いつかは再生可能エネルギーだけで暮らしていくことができるようになるのでしょうか？

再生可能エネルギーのコストの大半は、設備の建設にかかる費用です。そして、そのコストはどんどん下がってきていて、世界的には、他のエネルギーとの競争力もついてきており、ビジネスとしての価値も高くなってきています。

私たちがよく知っている世界的な企業は、再生可能エネルギーを積極的に取り入れ始めています。世界のトップ企業が自社で使う電力を 100% 自然エネルギーにしていく「RE100」キャンペーンにはすでに世界で 87 社(例:Google IKEA Unilever H&M NIKE など)が参加していますが、日本の企業はまだ一社も参加していません。一方で、Apple 社は、自社の小売店、事業所、データセンターなどで使用するエネルギーを 23 か国では再エネ 100%にしていますが残念ながら日本では達成できていません。日本は再生可能エネルギーを取り入れる事にまだまだ世界に後れを取っています。

省エネへの取組も積極的になってきています。米国、ニューヨークの有名なエンパイアステートビルは、2009 年から 6500 枚すべての窓ガラスを断熱ガラスにするなどエコリフォームを行い、冷暖房や照明システムを見直す事でエネルギー消費量を 38%削減することができたそうです。

発電方法を見直す事で、持続可能なエネルギーを生み出すことができ、同時に省エネすることで、将来的に再生可能エネルギーだけで暮らせるようになります。その日を早く迎えるために、そして原発事故のような不幸な出来事をもうこれ以上繰り返さないためにも、暮らし方、エネルギーの使い方を見直していきましょう。

■ぶらり人形町 ～ 文豪 谷崎潤一郎の生誕地～

グリーンファンド秋田東京事務所のお隣には、谷崎潤一郎生誕の地があります。建物はすでにビルになっており、当時の面影はありませんが「谷崎」というレストランと小さな碑があります。当時はこのあたりは蛸殻町と言っていました。エッセイ「幼少時代」では「現在の自分が持っているものの大部分は幼少時代に芽生えていた」とあるそうです。・・・と、伝聞なのははまだ未読のためです。この事務所に通うからには、このエッセイくらいは読んでみなければ！と思っはいるのですが・・・。「陰影礼賛」というエッセイでは日本家屋には不似合いだと、電線やスイッチを隠す事に腐心していた谷崎潤一郎が、電気の光があふれた現代に来たら、本当にびっくりするでしょうね。

当方にお越しの方には、事務所の場所がなかなかわかりづらい様なのですが、お隣の谷崎潤一郎生誕の地を見つけられたらもうすぐ近くです。

